

報道関係者各位

アートと映像の国際フェスティバル 恵比寿映像祭2023 コミッション・プロジェクト特別賞受賞者決定！ 荒木悠氏および金仁淑（キム・インスク）氏が受賞

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団東京都写真美術館、日本経済新聞社は、令和5年2月3日（金）～2月19日（日）の15日間（※月曜を除く）、映像とアートの国際フェスティバル「恵比寿映像祭2023」を開催しております。

恵比寿映像祭2023からスタートした新規事業「コミッション・プロジェクト」では、国内外の審査委員により、日本を拠点に活動する約300名の新進気鋭の作家から、荒木悠、葉山嶺、金仁淑、大木裕之の4名が選出され、東京都写真美術館3F展示室にて新作を展示しています。

本日2月17日、本プロジェクトの審査委員を招き、現代の映像表現の可能性を探るシンポジウム「コミッション・プロジェクト 一委嘱制作と映像作品の可能性」が開催され、会期中の最終審査により荒木悠氏および金仁淑氏が「コミッション・プロジェクト 特別賞」を受賞したことが発表されました。



【受賞者コメント】

荒木 悠

今回のコミッション・プロジェクトで何よりも嬉しかったのが、WISSの皆さんと、そのお友達が喜んでくれたことです。日々素晴らしいお仕事をなさっている、人生の先輩方の魅力を伝える術として映像が適していたのだと自信になりました。関章さん・福嶋隆之さん・宅間裕晃さん・広瀬伸治さん・波部吉宏さんと出会えた幸運と、関係者各位に心から感謝いたします。今は早く、WISSの皆さんとYEBISUビールで乾杯したいです。

金 仁淑

特別賞を頂きありがとうございます。今後も人々と丁寧に見つめ合いながら制作したいと思えます。『Eye to Eye』の主人公であるサンタナ学園と制作にご協力頂いた全てのみなさま、素晴らしい機会を与えて頂いた東京都写真美術館と審査員のみなさまに心から感謝いたします。

【審査コメント】

「コミッション・プロジェクト」で制作を委嘱された4作家の中から、さらに「特別賞」を決める審査会を、2月16日に東京都写真美術館で開催しました。

作家4人は審査員に対してプレゼンテーションを行い、自身の言葉で作品のコンセプトや完成までのプロセス、コミッション・プロジェクトに参加した感想や成果について説明しました。4人の作品はいずれも実験的かつ、意欲的な作品ばかりで、議論が白熱し、特別賞の選出は困難を極めました。

特別賞は、『仮面の正体（海賊版）』で、オリジナルとコピーの問題を、二面構成の映像インスタレーションで伝えた荒木悠さんと、在日ブラジル人学校を取材し、異なる背景を持つ人々の個性に向き合うことを考察した金仁淑さんの2名が選ばれました。

来年度の恵比寿映像祭では、荒木さんと金さんの作品の特集展示を予定しています。荒木さんと金さんの映像表現の広がり、新たな展開にどうぞご期待ください。

【コミッション・プロジェクトとは】

恵比寿映像祭 2023 からスタートした新規事業「コミッション・プロジェクト」は、日本を拠点に活動する新進アーティストに制作委嘱した映像作品を、恵比寿映像祭の根源的な問いである「映像とは何か」を軸に「新たな恵比寿映像祭」の成果として発表するものです。これまでに蓄積したネットワークを活用し、国内外の文化施設や文化組織での発信に広げることで、将来的にアーティストの創造活動を支援するスキームを作っていきます。



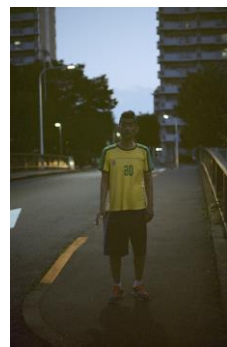
荒木悠 | Yu ARAKI



葉山嶺 | HAYAMA Rei



金仁淑 | KIM Insook



大木裕之 | OKI Hiroyuki

【開催概要】

名称：恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2023 COMMISSION PROJECT

会期：令和 5 年 2 月 3 日（金）から 3 月 26 日（日）まで、月曜休館

※「コミッション・プロジェクト」を除く「恵比寿映像祭 2023」は 2 月 19 日まで

時間：10:00～18:00（木・金曜のみ 20:00 まで、2 月 17 日、18 日は 20:00 まで）

※それぞれ入館は閉館の 30 分前まで

会場：東京都写真美術館 3 階展示室

料金：無料

公式 HP www.yebizo.com

公式 SNS twitter: <https://twitter.com/topmuseum/>

Instagram: <https://www.instagram.com/yebizo/>

《プレスリリース／広報用画像／ご取材に関するお問合せ》

※ 報道・媒体関係者様のお問合せに限らせていただきます。

恵比寿映像祭広報担当（共同ピーアール株式会社）：田中、伊原、安田

TEL：03-6264-2382／FAX：03-6700-5620／

E-mail：yebizo2023-pr@kyodo-pr.co.jp

携帯：080-8866-6183（田中）、090-7909-5164（安田）

【受賞者プロフィール】

荒木悠 | Yu ARAKI

ワシントン大学で彫刻を、東京藝術大学では映像を学ぶ。日英の通訳業を挫折後、誤訳に着目した制作を始める。英語圏において、「 casting」と「配役」がどちらも「キャストイング (casting)」と呼ばれていることを起点に、オリジナルからコピーが作られる過程で生じる差異を再現・再演・再生といった表現手法で探究している。2018 年はアムステルダム のライクスアカデミーにゲスト・レジデントとして滞在。2019 年フューチャージェネレーション・アートプライズのファイナリストに選出。

2020-21 年度アーツコミッション・ヨコハマ U39 アーティストフェロー。

<http://yuaraki.com/>

金仁淑 (キム・インスク) | KIM Insook

韓国の漢城大学芸術大学院西洋画科写真映像コースに留学後、15 年間のソウル暮らしを経てソウルと東京を拠点に制作活動を展開。「多様であることは普遍である」という考えを根幹に置き、「個」の日常や記憶、歴史、伝統、コミュニティ、家族などをテーマに制作を行い、写真・映像を主なメディアとして使用したインスタレーションを発表している。2008 年に光州市立美術館で個展「sweet hours」を開催。韓国国立現代美術館や、ドイツ・デュッセルドルフ市などが運営するアーティスト・イン・レジデンシーで滞在制作を行い、大邱フォトビエンナーレ、森美術館(東京)、東京都写真美術館など、国内外の芸術祭や企画展で作品を発表する。